

セキュリティ対策には「管理者権限」を軸にした 多面的なアプローチが重要!!

本コーナーではこれまでもたびたび「情報システム管理者以外の社員が管理者権限を持つことのリスク」について指摘してきたが、DXの進展によってそのリスクはさらに拡大しつつある。そこで、今号では(株)GRCSの北島康晴氏にあらためて管理者権限に潜むリスクとその対策について聞いてみた。



北島康晴 (きたじま・やすはる)

株式会社GRCS ソリューション戦略部
セキュリティコンサルタント

大学卒業後、コンピューターサイエンス(株)にて大企業向けインフラ構築支援業務に従事。2019年に(株)GRCSに参画し、GRCSの「S」にあたるセキュリティ業務を担当。エンドポイントからクラウドまで幅広いセキュリティのプリセールスや技術支援で活躍中。

持続可能性を追求する GRCSの多彩な事業

——(株)GRCSの皆さんには本コーナーに何度かご登場いただいておりますが、あらためて御社の特色について紹介いただけますか。

北島康晴・GRCSソリューション戦略部セキュリティコンサルタント 当社は「世の中を、テクノロジでシンプルに。」というビジョンの下、テクノロジーを活用して企業の守りの側面をご支援する会社です。社名の「GRCS」は当社の事業領域(Gがガバナンス、Rがリスク、Cがコンプライアンス、Sがセキュリティ)を示したもので、私はそのなかのセキュリティを担当しています。

——SDGsやESGに関する取り組みにも力を注いでいるそうですね。

北島 持続可能な開発目標を示

すSDGs (Sustainable Development Goals) に対して、ESGはEnvironment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)という企業が持続可能な経営を実践するうえで必要な観点です。これらに正しく対応していくには、経営者はもちろん、社員全員がSDGsとESGの趣旨を理解したうえで事業に取り組みなければなりません。そこで、当社ではお客さまにSDGs・ESG基礎研修サービスを提供し、それらの基本知識や導入ステップ、他社の事例などをわかりやすくレクチャーしています。

——地方創生に関する取り組みも推進されているそうですね、そのあたりについてもお聞かせください。

北島 代表取締役社長の佐々木 慈和の出身地である岩手県において、起業家支援拠点「岩手イノベーションベース(IIB)」

を県内のメディア・金融・行政・民間企業とともに設立しました。現在はその運営協議会の会員として教育機関や行政などと連携し「起業家支援」の取り組みを推進しています。人口減少や高齢化などの課題を抱えている地方都市において、起業家支援は地方創生の要です。この支援を通じて地域経済の活性化や若者の地元定着、雇用の創出さらには若手の人・企業の世界での活躍に貢献できればと考えています。

コンサルでも教育でも「人に寄り添う」ことを重視

DXが進展するなかで、ますますセキュリティの重要度が高まっているのではないのでしょうか。

北島 まさにその通りです。あらゆる規模・業種でITが当たり前のようになっているように、これまで以上に注意が必要だと思います。たとえば、規模が小さい会社だと情報システム管理者がいなくてケースがあり、社員にPCを購入したままの状態を支給していることがあります。しかし、それではセキュリティソフトなどの対策が不十分になるだけでなく、管理者権限などの面でも大きな課題が生じてしまいます。

また、ある程度の規模の企業になると、少数の情報システム管理者で数百人規模のPCやネットワークを管理しなければならぬケースがあります。これは情報システム管理者にとってかなりの負担であり、ときには情報システム管理者がその他の社員にも管理者権限を付与し、各自に各種ソフトのインストールやアップデートを任せてしまうことすらあります。

—— そうなった場合、どのようなリスクが顕在化するのでしょうか。

北島 あらゆるユーザーのPCに管理者権限が付与されてしまうことになるので、悪質なデータをダウンロードした際にウイルスやマルウェア（悪意のあるソフトウェア）に感染した場合の被害が大きくなってしまいます。感染してしまうと、そのまま攻撃者に管理者権限を悪用されてネットワーク全体のセキュリティがオフにされ、情報漏洩をはじめとしたさまざまな被害が生じてしまうかもしれません。—— こういったリスクを軽減するにはどうしたらよいのでしょうか。

北島 特権アクセス管理（PAM: Privileged Access Management）を導入してみてもどうでしょうか。

なかでも当社がイチオシしているのはBeyondTrust（ビョンドトラスト）の特権アクセス管理ソリューション「Privilege Management for Windows (PMW)」です。これは社員に付与する管理者権限の利用を最小限にとどめながらも、各自がPCをスムーズに運用できるようにするスグレモノです。このソリューション（解決策）を導入すれば、情報システム管理者と社員の負担が軽減され、生産性とセキュリティの両立を実現できます。ちなみに、このソリューションについてはBeyondTrustの国内総代理店である株式会社ブロード（東京都千代田区）と共同で販路開拓などに取り組んでいるところです。

—— 人材不足に悩む中小企業にとっては、うつつのソリューションといえそうです。

北島 セキュリティ対策を万全にするには多くの人的コストが必要になりますが、実際にそのコストを投じられる企業はそれほど多くはないはずです。だからこそ、こうしたソリューションを導入し、一社でも多くの企業にテクノロジを活用してシンプルにセキュリティ対策に取り組んでいただきたいと思っています。

—— とはいえ、ITを使用する

のが人である以上、人材育成なども重要になるのではないのでしょうか。

北島 同感です。そこで、当社では「人に寄り添う」ことを重んじ、顧客からのヒアリングにもとづいたコンサルティングなどに力を入れています。その一環として、お客さまからセキュリティ教育のニーズがあれば、それぞれの状況やレベルに応じた教育プログラムを提供し、社員教育に役立ててもらっています。

—— そういった事業を展開するには自社の人材育成にも注力しなければなりませんね。

北島 もちろんです。人材育成にあたっては、不用意に専門用語を使わせないようにしています。IT業界にいる人にとっては当たり前の言葉でも、一般の方にとっては耳慣れない言葉であるケースが多々あるので、できるだけ日常的な言葉に置き換えて説明できるスキルを磨いてもらうようにしているのです。—— こういった点においても、やはり「人に寄り添う」姿勢が大事だと肝に銘じています。

—— これからも社内外の人材育成に力を入れ、人に寄り添うサイバーセキュリティ事業を展開してください。

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう



HP Sure Click Enterprise

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました



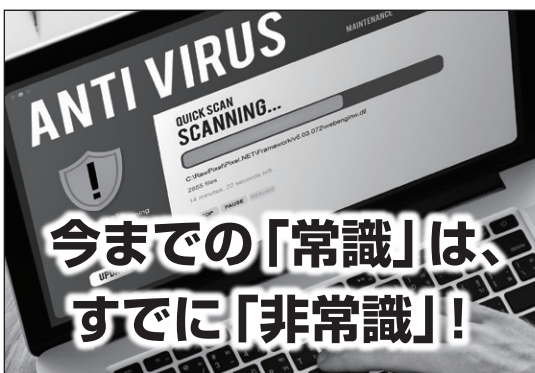
エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で ... <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)



今までの「常識」は、
すでに「非常識」!